

SRID NEWSLETTER

No. 379 JULY 2007 国際開発研究者協会 創設者 大来佐武郎

〒102 -0074 東京都千代田区九段南 1-6-17 千代田会館 5 階 FASID 内

URL: <http://www.srid.jp>

FS から 20 年、ウルグアイにパルプ工場稼働、工業コンサルの思い出

三上 良悌

お知らせ

1. 退会会員 伊藤 拓治氏

2. 懇談会 ○目的: シニアな会員と、若い会員の親睦促進

○形式: 夕食を共にしながら、参加者の自己紹介の後、自由に懇談。特に議事録は作成せず。(昨今のわが国の援助の問題、途上国の問題、中国、インドの影響など、老若男女の区別なく自由に議論)。

○日時: 7月20日(金曜日)、18:30-22:00頃

○場所: 参加人数を踏まえて、後日改めて連絡いたします。

FS から 20 年、ウルグアイにパルプ工場稼働、工業コンサルの思い出

三上 良悌

ウルグアイで御活躍中の三上隆仁氏 (SRID 会員で小生と同じ年だが今でも現役) から”3000t/d(1,000,000t/y)パルプ工場が稼働に入ることになったと連絡を受けた。

牧畜は盛んでも樹木は少なかったウルグアイでパルプ工場を建設する FS を JICA が取り上げ、幸いにしてユニコが受注した。

最初は 1985 年で 750t/d(260,000t/y) 工場建設費約 3 億ドルで採算性ありとの結

論を出した（このとき隆仁氏と知り合い、SRID 会員になられた）、1999 年二度目の FS で 2,000t/d(700,000t/y)建設費約 8.6 億ドルで採算性ありとの結論をだした。

ウルガイでは三上隆仁氏の努力もあり、パルプ材の選択・生育試験などが進み（関係資料頂いたが、詳細は隆仁氏にお任せするとして）ウルグアイでのパルプ生産が世界の注視を浴び、1999 年 shell が Kymmeme と BOTANIA 社創設、ユーカリの試験的植林開始（1991 年植林、1997 年最初に収穫、その後 shell 撤退）、上記のパルプ工場建設へと進んだ。

JICA による最初の FS から 22 年で実現したプロジェクトである。植林事業まで含めた事業であることからやむを得ないとしても、長い間フォローされた隆仁氏の熱意に敬意を表すると共に JICA でこの仕事の機会を得たことに感謝している。

同氏は、この植林事業をウルグアイ以外の近隣諸国にも拡大する夢を持たれ活躍されている。

JICA の仕事で喜びを感じる案件としてはこれ以外に下記のもの印象が強い。

- ① 金型研修所を上海に建設（1980 年代の高成長期で日本の企業は見向きもせず、中国は数値制御など高級機械は床の間に飾っておく時代、今や、金型産業は中国発展の一翼をになう）
- ② 大連環境案件（大気・水・騒音 3 分野で発生源調査・測定、拡散モデル作成、各地汚染状況調査、発生源対策と測定機械を持ち込み、北九州市の支援のもと行政面対策提案し、都市環境汚染調査・対策のモデルを作成）
- ③ 抗州市中小企業対策（中小企業ネットワーク確立、証券システム提案を含む行政提案、企業診断・提案など多くの提案が採択された。）
- ④ 中国以外でもエジプトで鉄鋼市場調査を実施、製鉄所の増設につながったなど

JICA の仕事で調査の結果で NO の答えをだした案件もいくつかある。

- ① ベネズエラのコークス炉建設（粘結炭埋蔵量不十分を理由に）
- ② インドの石炭改質案件（粘結炭不足解決のために一般炭の粘結性をあげる技術開発で 実験結果、技術的可能とわかったが、採算性がないことから否定した）など

30 年以上の工業コンサルタントとしては、まだまだ色々あるがとりあえず上記でとどめる。JICA 案件が多いが、タイやリビアなど相手からの依頼もあり、途上国の工業発展にいくらかは参画できたのではないかと自らを慰めている。